

## アイヌ衣服文様布量について

昭和女大文 ○村井不二子 昭和女大家政 吉本智子

目的：アイヌ衣服文様は、本州には見られない独特の文様である。基本となる文様や技法は同じであっても、使われる材料の組み合わせや配色により、実に様々な造形感覚が見られる。その文様を構成している布、文様布はアイヌの人達にとって交易によってしか手に入れることのできないものであったと言われる。そこで限られた布からいかに工夫して多くの文様を作り出したかという点から、布の貴重性、文様布量と文様のかかわりについて考察する。

方法：文様布を素材別、衣服種類別という点から考察を進めるとともに、実際に文様布に使われている布の量（文様布量）の計測を行い、素材別文様布量、衣服種類別文様布量、衣服布量に対する文様布量の割合を求める。

結果：文様の中には、実際に使われている文様布量の 2.5～3 倍の文様領域（文様間の空間を含む文様全体の範囲）を作り出しているものがあつた。布を細いテープ状にして用いることによって、少量の布でも衣服全体に文様を施すことができ、貴重な布を工夫して使っていたと言える。

また文様布量の入手量により、文様もそれに対応して変化していくと考えられ、文様布量と文様のかかわりが得られると思われる。その時々に入手した素材や模様異なる布を、アイヌ独自の感覚で見事に調和させ、美しい文様を作り出しているのである。